

令和 2 年度シラバス

教科名	理科	科目名	生物基礎	履修学年	1 年生	履修形態	必修
単位数	2 単位	時 数	70時間 (50分授業)	担当者名	渡辺 美穂		

教科書	実教出版『高校生物基礎 新訂版』	副教材	第一学習社『クリア生物基礎 記入式演習』
-----	------------------	-----	----------------------

学習目標	生物や生命現象の事象全体を総合的に見たり、関連的に考えたりする科学的能力や態度を養い、正しい自然観を身につける。さらに人間と自然とのかかわりについて理解を深め、自然保護の重要性を認識する。
指導の重点	①生物の生命現象のメカニズムを学ぶことで、自分の命を大切に考える姿勢を育む。 ②人体の恒常性のしくみについて理解し、生活習慣を点検し自分で自分の健康管理ができる態度を目指す。 ③生態系における環境と生物の関係や生物どうしの関わり合いについて理解し、他者を尊重し他の生物を保護する姿勢や、環境保全について考え行動できる態度を育てる。

学期	考 査	単 元	時 数	学 習 内 容	評価の観点				
					関	思	観	知	
第 1 学 期	中 間	第 1 章 生物の特徴							
		第 1 節 生物の多様性と共通性	6	・生物の特徴と共通性について理解する。 ・細胞の構造と働きを理解する。	○	○	○	○	
	第 2 節 細胞とエネルギー	5	生体内のエネルギー代謝について理解する。	○	○		○		
	第 2 章 遺伝子とその働き								
期 末	第 1 節 遺伝情報と DNA	7	・DNA の研究の歴史について理解する。	○	○		○		
	第 2 節 遺伝情報の分配	6	・DNA の構造を理解する。 ・細胞分裂と DNA の関係について理解する。	○	○	○	○		
第 2 学 期	中 間	第 3 節 遺伝情報とタンパク質合成	8	・タンパク質合成の仕組みを理解する。	○	○	○	○	
		第 3 章 生物の体内環境とその維持							
	第 1 節 体内環境	4	・体液と体内環境、恒常性について理解する。	○	○		○		
	第 2 節 体内環境の維持のしくみ	9	・自律神経とホルモンについて理解する。	○	○		○		
期 末	第 3 節 免疫	7	・免疫のしくみとその利用について理解する。	○	○		○		
第 3 学 期	学 年 末	第 4 章 生物の多様性と生態系							
		第 1 節 植生と遷移	6	・環境と植生、植物の遷移について理解する。	○	○		○	
		第 2 節 気候とバイオーム	4	・バイオームの分布について理解する。	○	○	○	○	
		第 3 節 生態系と物質循環	4	・生態系と物質循環について理解する。	○	○		○	
		第 4 節 生態系のバランスと保全	4	・生態系のバランスと保全について理解する。	○	○		○	

計70時間（50分授業）

※ 評価の観点 関：関心・意欲・態度 思：思考・判断・表現
 観：観察・実験の技能 知：知識・理解

（評価の観点）

	関心・意欲・態度	思考・判断・表現	観察・実験の技能	知識・理解
評価の観点	日常生活や社会との関連を図りながら生物や生物現象について関心をもち、意欲的に探究しようとする。ともに、生物の共通性と多様性を意識するなど、科学的な見方や考え方を身に付けている。	生物や生命現象の中に問題を見だし、探究する過程を通して、事象を科学的に考察し、導き出した考えを的確に表現している。	生物や生命現象に関する観察、実験などを行い、基本操作を習得するとともに、それらの過程や結果を的確に記録、整理し、自然の事物・現象を科学的に探究する技能を身に付けている。	生物や生命現象について、基本的な概念や原理・法則を理解し、知識を身に付けている。
評価方法	・提出物（配布プリント・ノート等）の提出状況や内容 ・授業の取り組み（出席状況・授業態度・学習活動への参加状況など）	・記述・論述式小テストおよび單元ごとのレポート作成（提出および内容）	・実験への取り組み、実験態度や実験操作の正確さ、実験レポートの作成（提出および内容）	・定期考査の成績および授業中に行う問題や小テストの成績

担当者から一言	生物の生命現象は身近なものなので、日ごろの生活の中においても、それらを科学的に探究・考察する態度や能力を養ってほしい。
---------	---